

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします

令和4年4月19日（火）に実施した「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果について、別添のとおりお知らせします。

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

調査の内容

- 教科に関する調査（小学校調査は国語、算数、理科 中学校調査は国語、数学、理科）
 - ・出題内容は、
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等上記①と②を一体的に問う。
- 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

調査の方式

悉皆調査（調査の対象学年の全児童生徒を対象とした調査）



<別添>

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

学びの改革支援課

- 令和元年度から、知識と活用（A・B問題）を一体的に問う調査問題となりました。また、小学校理科及び中学校理科は4年ぶりに実施されました。
- 小学校国語と理科、中学校数学は、平均正答数及び平均正答率が全国と同程度となり、中学校理科は若干上回りました。一方、中学校国語は、平均正答数及び平均正答率が全国を若干下回り、小学校算数は、全国を下回る結果となりました。
- 小学校国語については、令和3年度に「国語重点対策チーム」を立ち上げ、授業改善の視点を示すなどして学校支援を行った結果、改善の傾向が見られています。
- 小学校算数、中学校国語については、「重点対策チーム」において、調査結果を踏まえた授業改善の重点を明確にし、学校を支援していきます。

1 実施状況

学校	当日実施学校数（集計対象学校数）	当日実施児童数（小6）・生徒数（中3）
公立小学校	350校（内特別支援学校3校）	15,087人
公立中学校	187校（内特別支援学校6校）	15,529人
公立小・中学校計	537校（内特別支援学校9校）	30,616人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

2 長野県と全国の平均正答数と平均正答率の比較（公立）

〔上段〕：平均正答数／設定問題数 〔下段〕：平均正答率

校種	年度 教科	令和4年度		年度 教科	令和3年度（理科 平成30年度）	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.2／14問 66%	9.2／14問 65.6%	国語	8.9／14問 63%	9.1／14問 64.7%
	算数	9.8／16問 62%	10.1／16問 63.2%	算数	11.1／16問 70%	11.2／16問 70.2%
	理科	10.8／17問 63%	10.8／17問 63.3%	理科	9.8／16問 61%	9.6／16問 60.3%
中学校	国語	9.6／14問 68%	9.7／14問 69.0%	国語	9.1／14問 65%	9.0／14問 64.6%
	数学	7.1／14問 51%	7.2／14問 51.4%	数学	9.1／16問 57%	9.1／16問 57.2%
	理科	10.6／21問 50%	10.4／21問 49.3%	理科	17.9／27問 66%	17.9／27問 66.1%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

3 今回の結果を踏まえた重点的な取組

(1) 各学校の課題に応じた支援

- ・成果が見られる学校に聞き取り調査をし、その効果的な取組を全県に広め、各学校が分析結果を基に、これまでの取組を検証し、組織的・継続的に授業改善に取り組めるよう支援する。
- ・各学校がS－P表を活用するなどして、補充・補完など、重点的指導を明確にして授業改善に取り組めるよう支援する。

(2) 市町村（学校組合）教育委員会との連携の充実

- ・地域の課題に応じた学力向上の方策について、GIGAスクール構想の取組も踏まえつつ、市町村（学校組合）教育委員会とより一層連携し、課題解決に向けた改善を図っていく。

(3) 小学校算数、中学校国語への重点的な支援

- ・小学校算数、中学校国語については、「重点対策チーム」において、調査結果を踏まえた授業改善の重点を明確にし、学校を支援する。

※S－P表：Student-Problem score table のこと。設問の正答率順、正答者数の多い順に児童生徒と設問を並び替えた正誤パターン表のことで、調査問題の特徴や児童生徒の反応パターンなどを分析するための手法。教員にとっては授業改善の手がかりとなり、児童生徒にとっては個別のつまずきが確認できるなど、分析に活用できる。